有料観覧席販売

[対面販売]大津駅観光案内所OTSURY｜石山駅観光案内所・堅田駅前観光案内所
[インターネット販売]びわ湖大津観光協会

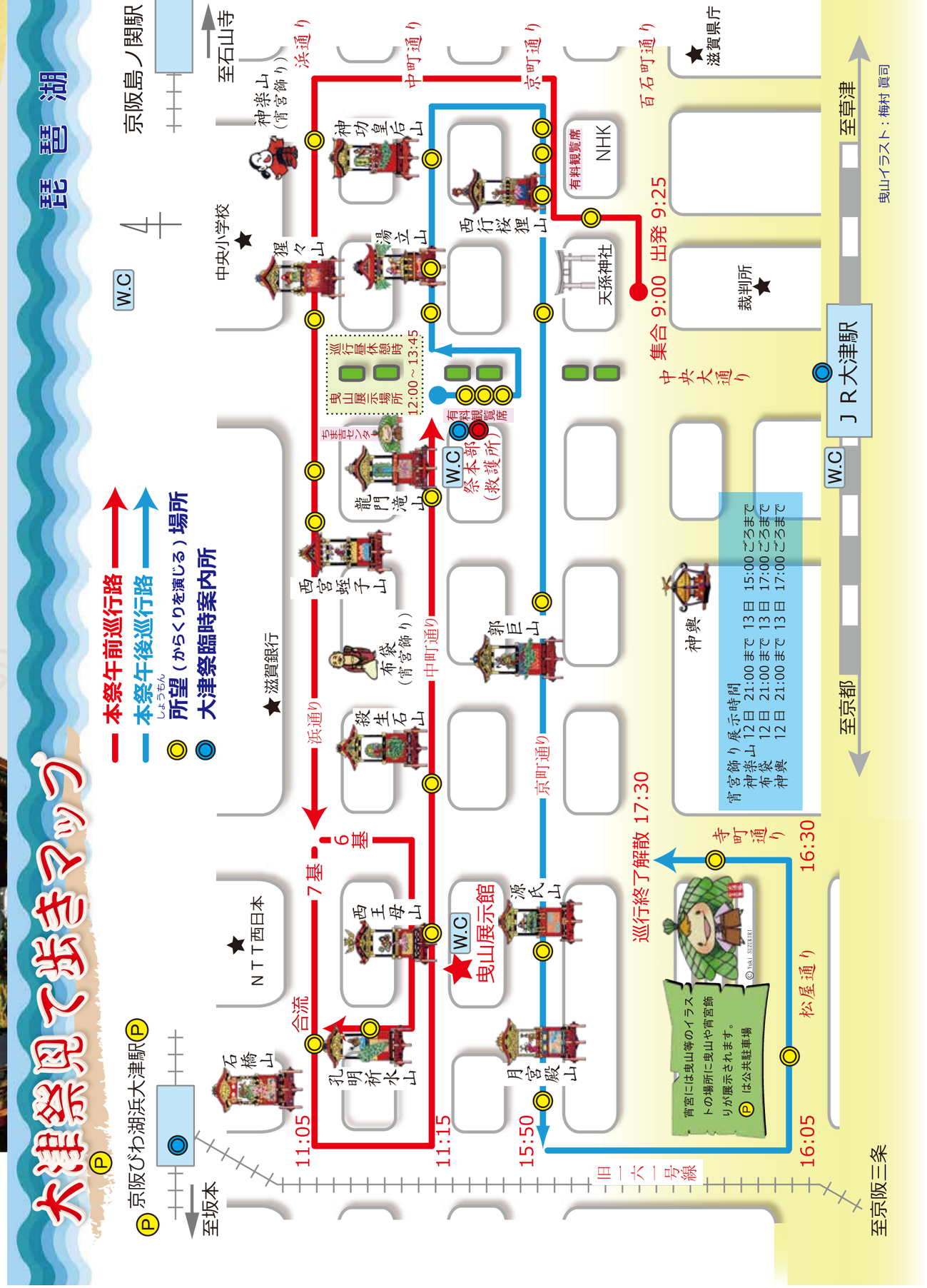
※発売日は大津祭曳山連盟又はびわ湖大津観光協会のホームページをご確認ください。

特定非営利活動法人 大津祭曳山連盟
大津祭曳山巡行総合問合せ／077-525-0505
※大津祭は滋賀県、大津市の補助金を受けています。

@OTSU_MATSURI

協賛：叶 匠壽庵　森井眼科医院　滋賀銀行

大津祭見て歩きマップ



大津祭について

四百年の歴史と伝統を持つ大津祭は、湖国三大祭りの一つで国指定重要無形民俗文化財に指定されています。曳山巡行は、豪華絢爛な13基の曳山が優雅なお囃子を奏でながら、からくり人形を操り、まちなかを巡行することで知られています。

宵宮（よみや）

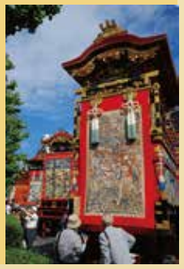
本祭の前日に行われ、午後一時頃から各山町で、宵宮曳きが行われた後、夕刻からは飾り付けられたちょうちんに灯が入り、曳山の上ではお囃子が奏でられます。

町内では曳山に乗るからくり人形や懸装品が公開されます。街中は夜九時過ぎまで賑わいます。

本祭（ほんまつり）

天孫神社に集合した曳山は、9時半頃に西行桜狸山が先頭で巡行を開始。巡行の途中で所望（しょうもん）の箇所で「からくり」を演じます。

からくりは能楽や中国の故事などの物語の一部を見せると言う他にはない特徴があります。巡行中に曳山より撒かれる粽を受け取るのも楽しみの一つです。



曳山巡行本鬮順

不鬮取 **西行桜狸山** 鍛冶屋町

1 **源氏山** 中京町
2 **湯立山** 玉屋町
3 **猩々山** 南保町
4 **西宮蛭子山** 白玉町
5 **孔明祈水山** 中堀町
6 **龍門滝山** 太間町
7 **神功皇后山** 猟師町
8 **郭巨山** 後在家町・下小唐崎町
9 **月宮殿山** 上京町
10 **殺生石山** 柳町
11 **西王母山** 丸屋町
12 **石橋山** 湊町

大津祭を安全に楽しんでいただく為。

各曳山より粽が撒かれます。粽を求めて殺到されると、危険です。
お子様やお年を召した方は、十分注意してお祭りをお楽しみください。

■人が集まっている所は避けましょう!

粽（ちまき）を求めて殺到されると、危険です。
みんな曳山の上しか見ていません。
足下にお年寄りやお子様が居ることを忘れないでください。
曳山に車輪があることを忘れないで下さい。

粽と手拭い

粽（ちまき）・手拭いは十三基曳山毎のデザインがあります。

粽は天孫神社でお祓いを受けた厄除け粽です。

古くなった粽は、近くの神社の古札納所にお納めください。天孫神社の場合は、祭礼から10月末までと、正月から1月15日頃までの間、本殿前に設ける粽納所にお納め下さい。袋や巻紙を外し粽のみとして下さい。曳山展示館では通年受け取りをしています。

資産運用・資産管理・不動産・相続のご相談なら
三井住友信託銀行
大津支店 〒520-0051 大津市梅林1丁目3番10号 JR大津駅北口前
0120-818-763（電話受付時間 平日9:00～17:00）

あなたの未来を強くする
住友生命

これまでの100年、これからの100年へ
株式会社 中村組
事業内容：プラント事業 / 土木事業 / 建築事業 / 物流事業
解体 / 塗装 / リフォーム / 業務請負 / 人材派遣業
〒520-2123 大津市瀬田大江町13-18 TEL 077-544-2160 FAX 077-544-2165

塗装・防水・足場・解体・リフォーム工事
株式会社 村建
〒520-0043 大津市中央2丁目3-36
TEL 077-544-2160 FAX 077-544-2165

西行桜狸山（さいぎょうざくらたぬきやま）

鬮取らず 鍛冶屋町

寛永十二年（一六三五）

塩売治兵衛が狸面を被って踊った事が発祥となった大津祭最初の曳山。明暦二年に西行法師が桜の精と問答を交わすカラクリを採り入れ、西行桜狸山となった。曳山の祖となった狸は屋上に載せられ、祭の先導をする守護となった。このため、この山はくじを取らずに毎年巡行の先頭を行く。所望は、古木から桜の精が現われ西行法師と問答をする。

猩々山（しょうじょうやま）

南保町

寛永十四年（一六三七）

能楽の「猩々」から取材したもの。むかし唐の国の楊子の里に住む高風という親孝行の者がいた。ある夜、夢に「楊子の町に出て酒を売れ」と教えられ、売っていると、海中に住む猩々から、酌めども尽きず、飲めども味の変らない酒の壷を与えられたという。所望は高風が酌をし、猩々が大盃で酒を飲み干すと、たちまち顔が赤く変わる。

西王母山（せいおうぼざん）

丸屋町

明暦二年（一六五六）

謡曲の「東方朔」から取材したもの。むかし崑崙山に住む西王母が天女とともに舞い降り、帝に桃の実を捧げ、長寿を賀した。この桃は三千年に一度花が咲き、一個しか実らない貴い桃であった。ここから俗に「桃山」と呼ばれる。所望は、桃が二つに割れ、その中から童子が現れて所作をする。これは桃太郎説話が加味されたものとも云われる。

西宮蛭子山（にしのみやえびすやま）

白玉町

万治元年（一六五八）

町内の伝承では、古くから西宮の蛭子を祀っていたが、後に曳山に載せるようになり、鯛を釣りあげた蛭子に商売繁昌の祈りを込めるようになったとある。所望はえびすさんが鯛を釣り上げる所作で人気がある。この所作から俗に「鯛釣山」と呼ばれている。創建当初は宇治橋姫山と称していたが、延宝三年以後、いまの西宮蛭子山となった。

殺生石山（せっしょうせきざん）

柳町

寛文二年（一六六二）以前

能楽の「殺生石」から取材したもの。鳥羽院に寵愛された玉藻前は、実は金毛九尾の狐で帝の生命を奪おうとしていたのを安部泰親に見破られ、東国に逃れ、那須の殺生石となって旅人を悩ましていたが、玄翁和尚の法力によって成仏したという。所望は玄翁和尚の法力によって石が二つに割れ、女官姿の玉藻前が現れ、その顔が狐に変る。

湯立山（ゆたてやま）

玉屋町

年未詳（寛文年中湯立山）

天孫神社の湯立ての神事はこの山から棒げるといい、曳山は天孫神社を型どり、周りはその廻廊を真似たものである。所望は称宜がお祓いをし、市殿が笹で湯を奉り、巫女が神楽を奏する。昔からこの湯をかけられたものは五穀豊穣、病気平癒、商売繁盛など縁起がよいという。創建当初は孟宗山といっていたが寛文年間にいまの湯立山となった。

郭巨山（かっきょやま）

後在家町 下小唐崎町

元禄六年（一六九三）

郭巨は中国二十四孝の一人。家は貧しく、子供が生まれて老母は自分の食を減らして孫に与えねばならなかった。「子供は又得られるが母は再び得ることはできない」と、郭巨は妻と相談し、子供を土中に埋めようと穴を掘ったところ、そこから黄金の釜が出てきたという故事による。所望は、郭巨が鍬で土を掘ると黄金の釜が出てくる。

孔明祈水山（こうめいきすいざん）

中堀町

元禄七年（一六九四）

蜀の諸葛孔明が魏の曽操と戦ったとき、流れる水を見て「敵の大軍を押し流して下さい」と水神に祈り大勝をした故事によるが、古い資料には、水に渇した孔明が趙雲に命じ、土を掘らせたら泉が湧いた、ともある。所望は、孔明の前に立つ趙雲が鉾で岩を突くと、こんこんと水が湧き出し、それを見た孔明が羽扇をうち振り喜ぶ様をあらわす。

石橋山（しゃっきょうざん）

湊町

宝永二年（一七〇五）

謡曲の「石橋」に取材したもので、大江定基入道寂昭が宋の国に渡り、清涼山にある文殊菩薩の浄土に続く険しい石の橋を渡ろうとしたとき、文殊菩薩の使いである獅子が岩の中から現われて、牡丹の花に舞い戯れるのを見たというもの。所望は、岩が開き、僧寂昭の前に唐獅子が歩み出てきて牡丹の花に戯れ遊んだあと、岩の中に戻ってゆく。

龍門滝山（りゅうもんたきやま）

太間町

享保二年（一七一七）

黄河の上流の龍門山の滝。魚は登ることができないが、もし登る魚があれば、昇天して龍になるという故事に因んでいる。登竜門という語はここから出たもの。所望は龍門の滝を鯉が躍り上がる所を見せる。鯉の滝登りは曳山のからくりとしては他に例がなく、たいへん貴重なもの。見送りはベルギーのタペストリーで重要文化財に指定されている。

源氏山（げんじやま）

中京町

享保三年（一七一八）

紫式部の「源氏物語」をテーマにしたもの。大津祭の曳山の中で、唯一大津に由来したカラクリを採り入れたものである。紫式部人形の十二単や曳山を飾る部品、欄干を見ると平安の昔を偲ばせるつくりで、女性的なデザインである。曳山に乗る緑色の岩は石山寺の観月台を模し、所望は紫式部が月を見ながら構想を練る様子を表現している。

神功皇后山（じんぐうこうごうやま）

猟師町

寛延二年（一七四九）

神功皇后が戦さに先立ち、鮎を釣り戦勝を占ったとされる伝説に因む。神功皇后は当時懐妊されていたが、戦さが終って後、応神天皇を無事出産されたことから、「安産の山」として信仰されている。所望は、皇后が岩に弓で字を書く所作をすると、岩に次々と文字が現われてくるからくりで、文字書きからくりとしては漸新な機構とされている。

月宮殿山（げつきゅうでんざん）

上京町

安永五年（一七七六）

謡曲の「喜多流月宮殿」から取材したもの。唐の皇帝が長生殿で新年を祝う節会を催され、世を寿がれたというもの。所望は、鶴と亀の冠をつけた男女の舞人が、皇帝の前で舞を舞う。そこから俗に鶴亀山とも呼ばれる。ベルギー製で重要文化財の見送り幕を所有するが、現在は平成十一年十月に復元新調されたものを使用している。

神楽山（かぐらやま）

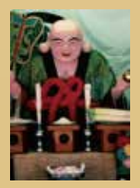
宵宮飾り 堅田町

寛永十四年（一六三七）

三輪明神を祀っていたことから、創建当初三輪山と称していたが、享保九年に改造され神楽山となった。安政六年を最後に巡行しなくなり、現在は三輪明神・市殿・禰宜・飛屋の四体の人形と、中国清代初期の官服を仕立てた見送幕、前懸幕の「瓶割図刺繍」、胴懸幕の「耕織図刺繍」が宵宮と本祭の両日、堅田町内に飾られる。

布袋ねりもの（ほてい）

宵宮飾り 新町



元禄六年（一六九三）以前

ねりものとは今でいう仮装行列で、江戸時代の大津祭には、多くの氏子町からねりものが出されていた。新町の布袋は、元禄六年の記録に登場することから、それ以前の創建であることがわかる。現在、宵宮と本祭に町内で飾られる布袋の人形は、文化七年に新調されたもの。全高二メートルを超え、かつては人が中に入って練り歩いた。

神輿（みこし）

下百石町

寛政九年（一七九七）以前

寛政九年の伊勢参宮名所図会に「御輿祓いの日に百石町より紙の御輿を出す」とある。この頃の神輿は、フスマのような紙貼りの神輿であった。弘化二年に神輿の新調があったという記録があり、現在の神輿の鳳凰や瓔珞は、この時のものである。昭和三十年代までは、天孫神社の神輿とともに渡御が復活した。

天孫神社のお知らせはこちら
http://www.tensonjinja.jp